

「論語」読む会 相次ぎ誕生

まず八雲で定例講座

松江市内

「論語」の素読を楽しむ会が、8月以降、松江市内で相次ぎ誕生した。「仕掛け人」は小松電機産業(松江)社長(65)。全国各地で「ことも論語塾」を講義、話題を集めている安岡定子さん(48)との出会いがきっかけだ。定例講座は8月に

同市八雲町で「八雲めだか論語塾」がまずスタート。城北公民館同市北堀町)でも10月に「論語勉強会」が発定し、年内には松江、出雲両市内であと5グループが発定する予定という。

論語は、中国・春秋に編さんされ、「仁」を中心とする一門の思想が収められている。安岡さんは、陽明学者で歴代首相の指南役といわれた故・安岡正篤氏の孫で、著書「親子160人が参加した。安岡さんは、「困った

時、悩んだ時、皆さんは誰に相談しますか」と語りかけ、「孔子は弟子の悩みを何でも解決できた人で、論語には、そんな孔子と弟子のすてきなやり取りがいっぱい詰まっている」と説明。その後、参加者とともに「子曰く、『詩に興り、礼に立ち、樂に成る』(詩と礼と樂とは、心豊かな人になるために必要なもの)など6章

を素読した。財団法人・人間自然科学研究所の理事長も務める小松社長は、「いまや世界は一国だけで存続することが難しい時代。論語の素読を

継続発展させることで、『仁』の精神を多くの人々に悟ってもらいたい」と語る。同研究所の小谷忠延事務局長は「声を出して読むことで、論語の精神がしだいに心にしみこんでくる。現在は大人だけのグループもあるが、将来的には親子で素読を楽しむ会にしていきたい」と話している。

【元田 稔】



参加者と一緒に論語を素読する安岡さん(左)
松江市内乃木福富町の小松電機産業で

フォークリフト専門の修理工場
フォークリフト修理販売特定自主検査
有出雲フォークリフト
出雲市大島町332-1
TEL.(0853)43-3366